

## 第2回八戸港復旧検討会 議事概要

日時：令和8年2月2日（月） 13：30～16：00

場所：青森県みなと分庁舎（八戸港管理所） 会議室  
（青森県八戸市大字河原木字北沼 1-131）

### 1. 主な議事

- 事務局（東北地方整備局及び青森県）より、応急復旧工事の報告、被災状況調査等、被災メカニズムの検証結果、各施設の復旧方針、復旧にあたっての基本方針（更新案）について説明した後、構成員による意見交換を行った。

### 2. 主な意見

（八太郎地区1号ふ頭-13m岸壁【E岸壁・先端部】）

- 先端部のケーソン前面に土砂が堆積していることから、先端部目地から吸出しが発生している可能性がある。目地部の防砂板の状態について、確認いただきたい。
- 先端護岸の前面の堆積土砂を撤去すると土砂の再流出・空洞化の進展が起こりうるので、撤去しない方が良い。

（八太郎地区2号ふ頭 コンテナヤード）

- 噴砂は確認されなかったが、現地の沈下状況を踏まえると、液状化が発生した可能性が高い。液状化判定にあたっては、現行の港湾技術基準の手法を適用していただきたい。
- 液状化が発生した可能性が高い場所だけ限定的に液状化対策を行うと、次回地震発生時に不同沈下が発生する可能性があるため、施工範囲の決定にあたっては留意が必要。
- コンテナ撤去後に現地測量を行い、ヤード全体の沈下・亀裂状況を調査する予定。
- 隣接するケーソン間のズレについては計測されているが、護岸のケーソンが全体としてどの程度移動しているか確認した方が良い。

（利用者要望）

- コンテナヤード・P岸壁の復旧工事にあたっては、全面的に一斉施工するのではなく、工事と荷役作業が同時にできるように区画を分割して施工いただくことを希望する。

○荷役継続を優先し、施工計画の柔軟化と段階的切り替えに向けた協議・調整を要請する。

(その他全般)

○コンテナターミナル以外の被災箇所の復旧にあたっては、原形復旧とする。

○コンテナターミナル以外の本格復旧は利用者と調整のうえ、令和 8 年上半期中の復旧完了を目標とする。

○本格復旧においてケーソン上面のエプロン舗装を修復する際、ケーソン背後の場所に合わせて目地を入れると良い。

○次回検討会は、3月下旬に開催予定であり、コンテナターミナルの復旧方法等を中心に議論する予定。

以上